

こども教育会議 会議録

日時	場所	出席	小松市長、浦郷教育長 教育委員（古場、河内、岡本、森、犬走、奥川、貝原、一ノ瀬、欠席：副島委員） 浅井副市長、松尾こども教育部長、古賀企画部長、学校教育課（竹内課長）、教育総務課（山田課長、樋渡課長代理）、商工課（秋月課長）、観光課（山口課長、古田係長）、生涯学習課（青木課長）、企画政策課（松尾課長、朝重係長、富永、古川）
平成29年9月25日（月） 13:30～14:25	武雄市役所 （本庁） 全員協議会室		
1. 協議件名		第14回こども教育会議 （たけおの休日づくりについて）	

議事録

内容

1 開会（進行：古賀企画部長）

2 議事（議事進行：小松市長）

（1）たけおの休日づくりについて

①キッズウィークの概要や他県事例の紹介

⇒冒頭に、国でのキッズウィーク創設の背景や検討内容を説明し、他県の事例を参考にしながら、市独自の学校休業日の設定について、出席者で意見交換を行った。

②意見交換

<出席者の意見>

- ・学校休業日の分散化のメリットとしては、道路渋滞の緩和や有給休暇の取得増進、家庭や地域の教育力を高めることが挙げられる。他方、非正規雇用の方やひとり親家庭が、休暇を取得すると所得の減少に繋がる可能性があることや、親が休暇を取得できない場合の子どもの居場所づくりが課題である。企業の有給休暇取得に対する理解が必要。
- ・学校休業日の設定について、6月は祝日がなく、10月は体育の日のみの祝日である。武雄市は、2学期制を採用しているため、児童生徒に1学期と2学期の区切りの意識を持たせる意味で、2学期が始まる10月に学校休業日を設定してはどうか（秋休みの創設）。
- ・学校休業日の設定については、部活動等も休みにして徹底的に取り組む必要がある。
- ・休日で時間があるのに遊び方が分からない子ども達が増えてきた印象がある。そのため、学校休業日の検討については、休みの期間をいかに充実させるかが重要。
例えば、子どもクラブや公民館活動といった地域活動と学校との連携、民間企業と連携した新しいイベントの提供、スポーツやキャンプ等の専門性に特化した本を楽しむ環境づくり、タケさんぽを活用した地域資源を発見するイベントの企画等、様々な楽しみ方を提供することが大事である。
- ・北欧では、個人が尊重されているため、共働き家庭が多く、特に父親の育休取得率が高い傾向にある。親と子で過ごす時間が多いため、子どもの自己肯定感も高く推移している。
たけおの休日づくりを考える際には、父親の育児参加や母親の家事負担の軽減を図ることを考慮しつつ進める必要がある。
- ・学校休業日の設定については、単に休業日を増やすのではなく、目的を明確にしなければならない。案としては、休業日を「家庭教育の日」として、家族ぐるみ、地域ぐるみの子育てを目指してはどうか。
ただし、家庭教育を支援できる行政のあり方（有給休暇取得の増進や育児休暇制度のより一層の普及啓発等）や、家庭と地域の絆づくり（各地域活動やボランティア活動への積極的な参加）等の条件整備が必要である。また、家庭教育支援を考える際に自治公民館と連携した学習機会の提供も重要である。

- ・学校休業日の設定については、保護者に対して候補日や取組みの内容等を提供して、十分に意見を聞いていただきたい。
- ・おくんちや浮立等の日に合わせた学校休業日の設定については、地区によって、ばらつきが出てくるのが想定されるため、市全体で統一することは難しい。地域の実情に応じた休業日の設定ができないか。
- ・学校休業日の設定については、部活動や学校行事、新学習指導要領との調整が必要。
- ・公共施設等の無料開放等、小さなことから始めていって、徐々に目的を達していったらどうか。
- ・夏休み期間に土曜日開校等にて、最高で8日間登校しているため、そのうちの2～3日を学校休業日とすることは数字的には可能である。しかしながら、土曜日開校は、授業時間数の確保のためのものである。今後、新学習指導要領により授業数が増加することを考えると、学校休業日の設定については、十分に検討する必要がある。
- ・保護者の意見として、登校日は増やしてほしいという現実もあるため、学校休業日を設定することで、親子で過ごす時間になるかどうか不安もある。
- ・親が休めない時の受け皿が必要かどうか等も含め、保護者の理解を得るためには大義名分が必要。

<市長の発言>

- ・新学習指導要領により、授業時間数も増えるため、子ども達はとても忙しいと感じる。休息をどう確保するか、子どもの目線に立って、どういった形が良いのかを念頭において議論する必要がある。
- ・社会に個人を合わせるのではなく、今後は、個人や各家庭に社会を合わせる世の中になってくると考えられるため、休日を作る上でも、子どもの休日の過ごし方の選択肢を増やしておくことが大事。
- ・目的を何にするのか、そのために何をするのかという視点が大事。
- ・学校休業日を考える上で、企業は、キッズウィークをどう捉えているのか、今後の企業での働き方も含めて、産業界側の意見を聞きながら、議論を重ねていきたい。

3 閉会（進行：古賀企画部長）